

2024（令和6）年度  
「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン  
助成活動報告



2025(令和7)年6月23日  
NPO法人北海道遺産協議会

## 2024(令和6)年度「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン 助成先一覧(計3件)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	静内二十間道路の桜並木	新ひだか町	新ひだか町	「静内二十間道路の桜並木」における桜の植樹活動	400,000
2	野付半島と打瀬舟	別海町、 標津町	NPO法人野付エコネットワーク	「野付湾の打瀬舟」の魅力発信	200,000
3	霧多布湿原	浜中町	特定非営利活動法人 霧多布湿原ナショナルトラスト	1、霧多布湿原環境美化活動ゴミ拾い「モニ・クリ」 2、美しい霧多布湿原を眺めながら「アイルランドフェス」	200,000

# 1. 「静内二十間道路の桜並木」における桜の植樹活動

- 実施主体：新ひだか町
- 実施団体URL： <http://www.shinhidaka-hokkaido.jp/> (新ひだか町HP)
- 助成額：400,000円

## 一活動内容一

- 二十間道路桜並木は、「日本の道百選」「さくら名所百選」「北海道遺産」に選ばれるなど、他に類を見ない日本屈指、また世界に誇る桜の名所であり、後世に引き継いでいかなければならぬ「まちの宝」であるが、老木化や異常気象などの強風による倒木・枝折れ、さらには害虫被害も深刻であるため、近年は樹勢回復事業に取り組んでいる。
- 令和元年度から助成金を活用し、今年の6本を加え合計32本の桜を植樹することができている。



遺産の名称：  
「静内二十間道路の桜並木」  
(新ひだか町)



二十間道路は、和種馬の大型改良のために1872(明治5)年に黒田清隆が進言し、静内町(現・新ひだか町)から新冠町にまたがる地域に開設した御料牧場のための行啓道路。龍雲閣まで直線で約7km、幅20間(約36m)にわたって両側に2,000本をこえるエゾヤマザクラなどの並木が続く。雄大な日高山脈を背景とした景観は我が国で類を見ないスケールとして知られる。

## 2. 「野付湾の打瀬舟」の魅力発信

- 実施主体：NPO法人野付エコネットワーク
- 実施団体URL：<https://notukeeco.blogspot.com/>  
(NPO法人野付エコネットワークHP)
- 助成額：200,000円

### －活動内容－

- 野付半島の豊かな水産資源を守り育むため、地元の漁業者はアマモを守り持続可能な水産業に長年取り組んできた。その代表的な漁法が風力のみで操業する「打瀬舟」であり、野付湾の風物詩の一つとして大変魅力的な景色となっている。
- 「野付湾の打瀬舟」のより深く理解してもらうため、①「秋のシマエビ漁の打瀬舟見学ツアー」の実施と②「打瀬舟」による操業の様子を紹介するパネル作成を企画したが、今年度はエビ資源保護のため、操業期間の大幅削減と操業制限などにより、野付漁協との協議の結果、①は実施不可となつたため、②を中心にして事業を行つた。
- パネルには北海道遺産「野付半島と打瀬舟」を中心に、野付半島の伝統漁法である「氷下待ち網漁」の紹介を掲載。また、「ラムサール条約登録湿地」と「東アジア・オーストラリア地域フライウェイネットワーク」等の解説を通じて、野付半島の環境保全の重要性を紹介している。完成したパネルは館内に設置し、来館者への解説等に活用している。



遺産の名称：  
「野付半島と打瀬舟」  
(別海町、標津町)



全長26kmの日本最大の砂嘴（さし）で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけています。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。

### 3. ① 霧多布湿原環境美化活動ゴミ拾い「モニ・クリ」 ② 美しい霧多布湿原を眺めながら「アイルランドフェス」

- 実施主体：特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト
- 実施団体URL：<https://www.kiritappu.or.jp/>  
(特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラストHP)
- 助成額：200,000円

#### －活動内容－

##### ①霧多布湿原環境美化活動ゴミ拾い「モニ・クリ」

浜中町内とその近隣市町村のボランティアとともに、浜中町と霧多布湿原のゴミ拾いを行い、全7回、参加者数62人で1,000kgのゴミを撤去した。集まったゴミは浜中町の協力を得て処理した。

##### ②美しい霧多布湿原を眺めながら「アイルランドフェス」

浜中町の風土や霧多布湿原の風景がアイルランドと共通していることから、アイルランドの大天使館とトラストにて情報の交換をし、国際交流を目的として2022年よりイベントを開催している。

今回は9月1日に霧多布湿原センターにてイベントを実施。当団体会員、地域住民、訪問者の方々に、湿原の風景とコラボしたアイルランド文学の朗読や音楽、更にクラフトなどのワークショップを実施することができた。また、イベントを通じて、憩いの場を提供し豊かな時間を過ごしてもらうきっかけとなった。



▲モニ・クリ



▲アイルランドフェス

遺産の名称：  
「霧多布湿原」  
(浜中町)



湿原景観を構成するすべての要素が一望できる学術的にも貴重な湿原。一部は「霧多布湿原泥炭地形形成植物群落」として、1922(大正11)年に天然記念物に指定され、数百種の高山植物が自生している。春から秋にかけて咲く花々の美しさを楽しみ、タンチョウや白鳥など百種の野鳥も観察できる。地域では湿原保全のナショナルトラスト活動が積極的に展開されている。